

ゼオンポリミクス株式会社 大津事業所

ゼオンポリミクス株式会社は、日本ゼオン株式会社の合成ゴム事業展開の一環としてゴムコンパウンドの製造を担う会社として1967年に設立されました。

日本ゼオンの持つ優れた合成ゴムと、設立以来培われた当社のコンパウンド技術が相乗し、工業用ゴム部品などの素材として当社ゴムコンパウンド製品は多くの分野で使用されています。

特に耐熱性、耐油性、耐磨耗性などの特殊ゴムコンパウンド分野では、自動車の機能ゴム部品の素材として使用されるなど、多くのお客様から厚い信頼を得ております。



会社概要

- 名称 ゼオンポリミクス株式会社
- 設立年月日 1967年4月7日
- 社員数 82名（2010年10月現在）
- 資本金 240百万円

- 本社 滋賀県大津市石居1-11-1
 TEL 077-546-1223 FAX 077-546-0338

- 事業所 滋賀県大津市石居1-11-1
 TEL 077-546-1222 FAX 077-546-0338

- 営業品目 成型用ゴムコンパウンド(CM)
 (自動車部品を始めとした各種ゴム部品の成型加工メーカー向けの合成ゴムや天然ゴムにカーボンブラックや各種薬品を混合したゴム加工中間製品)

I. マネジメントシステム

当社はISO9001とISO14001の要求事項を網羅した当社独自のQEMSを品質・環境の2つの輪を以って、安心と信頼でお応えします。

1. QEMSとは

Quality (品質)

Environment (環境)

Management・System (マネジメントシステム)

のそれぞれの頭文字を取ったもので、ISO9001及びISO14001に適合した当社のマネジメントシステムをいう。

ゼオンポリミクス品質・環境方針

・ゼオンポリミクスは、環境・安全を守ることを企業理念とし、全てに優先させています。そして、優れた技術力を積極的に活用し、徹底した品質管理体制を構築して、各種ゴムコンパウンドを提供することで社会に貢献しています。

・ゼオンポリミクスは、「ベンチマーキング」を常に念頭に置き、製品品質及び会社品質で業界ナンバーワンを目指します。

・ゼオンポリミクスは、顧客指向、法令遵守、環境保全を融合させた品質・環境マネジメントシステム(QEMS)を全員参加で構築し、たゆまず活動していきます。

・ゼオンポリミクスは、企業の社会的責任(CSR)を重視し、行動します。

1. 顧客指向の品質作り

最適なサプライチェーンにこだわり、常に顧客の視点から考え行動し、顧客の満足度の向上に努めます。

- ① 安定・安全な生産工程の維持向上
- ② 工程での品質保証体制の継続した作りこみ
- ③ 顧客ロイヤルティの強化

2. 関連法令その他の要求事項の遵守

製品及び、環境側面に関連する法規制並びに、当社が従うべきその他の要求事項を明確にし、それに適合させます。

- ① 遵法状況の定期的確認と改善
- ② 法令教育の計画的実施

3. 環境負荷の低減

地球環境・地域環境保全の重要性を認識し、資源利用の効率化を事業活動の柱とします。

- ① 省エネの推進
- ② 産業廃棄物量の削減
- ③ 環境負荷原料の代替推進

4. 品質・環境マネジメントシステム(QEMS)の継続的改善

品質・環境のパフォーマンスを増進するため、QEMSの妥当性を確認し有効性を検証します。

- ① QEMS内部監査の質的向上
- ② マネジメントレビュー(MRm)の定期的実施によるQEMSの見直し

5. 企業の社会的責任(CSR)の重視

「社会の公器」として、社会から信頼され、社員も働く誇りを感じる会社を目指します。

- ① 日本ゼオン CSR基本方針の遵守

2010年07月01日
ゼオンポリミクス株式会社
代表取締役 山本 誠

II. 認証登録状況

ISO 9001	: 2000	登録日: 2001年12月
ISO 14001	: 2004	登録日: 2004年06月

III. 環境負荷低減への取り組み

はじめに

現在、地球温暖化や資源の枯渇など地球規模での環境問題が深刻化してきています。わが国は2009年にエネルギー削減目標として1990年比で2020年迄にCO₂換算25%削減とする声明を行ないました。

当社としても環境負荷低減の取組として、'09年に新たに品質・環境方針の見直しを図り『ゼオンポリミクス品質環境方針』として地球環境・地域環境保全の重要性を認識し改訂を行いました。

今年度は2015年迄の『環境中長期計画』を作成し、産業廃棄物・省エネルギー・P R T Rに関して目標を設定し活動を開始しています。

1. 省エネの推進

①方針及び目標

環境負荷低減の取組として省エネルギー、原単位削減を重点化して活動を進めています。管理項目としてエネルギーの使用量（原油換算、KL）に対する製品の生産量（トン）を尺度として原単位の改善を図っています。ゴムコンパウンドの生産は電力使用量が大きな比率を占めており省エネ機器の導入、生産性改善、ムリ・ムダ・ムラの削減が大きな要因となります。方策展開の進め方としては2001年度の原単位を基準とし、年度毎の目標値を前年比1%改善とする計画を設定しています。

②活動実績と成果

'10年度は、生産体制を当工場への一極化を図り、生産量は前年度の25%増となり原単位は、前年度対比10%の削減を達成しました。

一方、エネルギー使用量は原油換算で1500KLを超え、再度第二種エネルギー管理指定工場となり、省エネ法の改正に順じて省エネ推進体制の見直しを行い組織の強化を図りました。

生産活動では省エネ機器を積極的に採用し、生産効率の向上・不良率の削減をベースに使用エネルギーの低減活動の取り組みを継続的に進めています。

●エネルギー原単位の推移

08、09年と原単位は悪化していましたが'10年は過去10年で最も低減した水位で、2001年度比では目標レベルを達成した水準であります。

エネルギー原単位の推移(2001年度を100とした指数)

